

[003]附属循環型社会システム工学研究センター活動 報告 : 3

<https://doi.org/10.15017/20024>

出版情報 : 附属循環型社会システム工学研究センター活動報告. 3, 2011-06-01. 九州大学大学院工学研
究院附属循環型社会システム工学研究センター
バージョン :
権利関係 :

巻頭言



センター長・教授 原 一広

平成 23 年 3 月 11 日は、私達にとって忘れられない日となりました。本邦最大の地震から生じた巨大津波によりひとたまりもなく破壊されていく街々や家屋を見ると自然のエネルギーがいかに大きなものか、人類の力がいかに小さいかを思い知らされます。この事とともに、日本の各地域は繋がっていて様々の形で影響を与え合っているという事が再認識されました。電力供給の問題以外にも、震災で東北地方から遠く離れた福岡のイベント会社が倒産したとも報じられています。また、今回の未曾有の災害は、リスク管理に関しても様々の問題を投げかけてきています。災害予測は難しく、答えが無いかもしれないこの課題について、何とか対処しなければ人類の将来はないかもしれません。

今回の震災の様に劇的な被害を短時間で引き起こすものではありませんが、人類の生存リスクを生じるという意味では、資源、環境、エネルギー問題も叡智を結集して解決しなければ人類の将来はないものとなる重大な課題です。むしろ劇的な変化がない為に私達はこの事に鈍感になっており、ある限界が来るまで誰もが気がつかない状態のままなのかもしれません。この観点からも循環型社会の構築は人類にとって重要な行動目標であると考えられます。

この様な状況下、循環型社会の構築を目標として発足し、今年度で発足 4 年目となる附属循環型社会システム工学研究センターの担うべき役割はますます大きくなると考えられます。附属循環型社会システム工学研究センターでは、目標である循環型社会の構築の達成の為に、昨年度より総長を機構長として発足した九州大学東アジア環境研究機構とも連携し今後とも研究教育に邁進する所存ではあります。しかし、わずか 6 講座の教員で出来る事は分野的にも研究量的にも限られており、各方面のご協力無しには十分な成果をあげる事は難しいと存じております。是非とも関係各位のご高配を仰ぎたく、皆様へのお願いをもちまして結びの言葉とさせていただきます。